

北海道 IT コミュニティアンケート 2023

作成日 2023 年 6 月 24 日

作成者 OSC 北海道実行委員会・一般社団法人 LOCAL

2020 年以降、世の中が新型コロナウイルス感染症の影響下におかれてきましたが、2023 年になりようやく回復の兆しが見えてきました。2020 年よりおこなっている、北海道内のコミュニティの活動状況について、課題点、工夫している事項、意識の共有を目的として、各コミュニティに協力をいただき、アンケートを実施しました。

実施時期：2023 年 5 月下旬～6 月中旬

回答数：n=11

全体の傾向

2022 年のコミュニティ活動は前年と比較して活動量に大きな変化は見られませんでした。全体的に活発化し、ポジティブな回答が増加したようです。オフラインおよびハイブリッド形式でのイベント開催や活動が増加しており、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和が影響していると考えられます。

過去 2 年ほど、オンライン懇親会の運営に関する課題が存在していましたが、今回はその課題に対する回答が減少し、懇親会の実施/未実施に関する明確な方針が模索段階を超えて定まってきたと考えられます。

今後の活動についての設問では、全コミュニティがオフラインもしくはハイブリッド開催と回答しており、コミュニティ活動におけるオフラインの期待が現れています。さらに、活動量に関しては変化なしまたは活発化との回答が多くあり、オフライン開催の活用によって活動量が増加していくと考えられます。

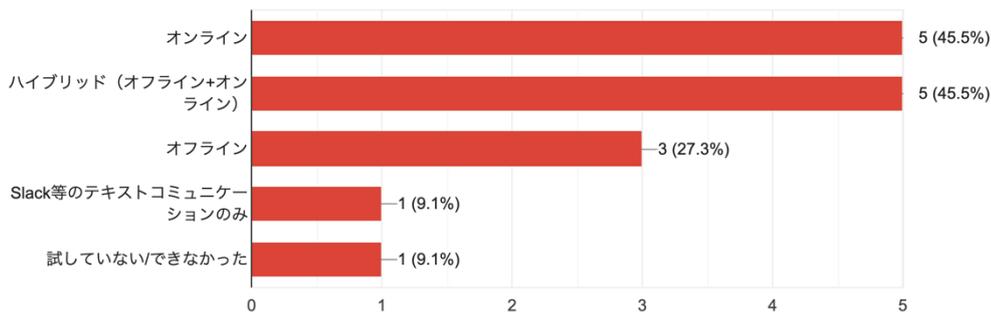
アンケート結果

①2022年度の活動はどのような方法を試しましたか

2021年度（前回）のアンケートではハイブリッド開催が25%でしたが、今回は45.5%と増加しています。2022年度はオンラインのみの開催方法からオフラインを活用した開催方法への回帰を模索した時期であったと思われます。

2022年度の活動はどのような方法を試しましたか（利用していましたか）

11件の回答

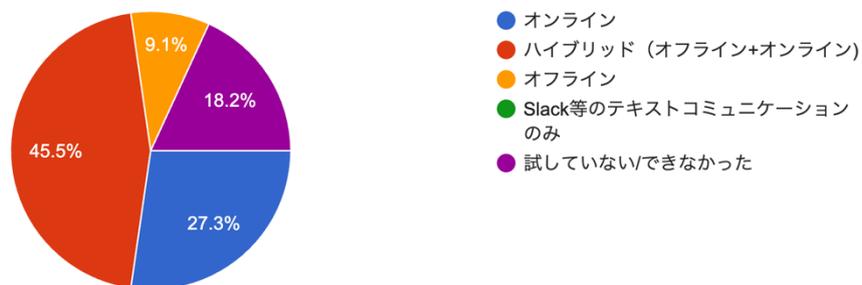


②2022年度の活動はどのような方法に落ち着きましたか。

オンライン開催が浸透し、ハイブリッド開催がメインとなっていたようです。また、近場の方はオフライン+遠方の方はオンライン参加、という開催方法をしたコミュニティがありました。一方で、オフラインのみの開催は9.1%と、まだ多くのイベントではオフラインのみの開催は控えていたと考えられます。

2022年度の活動はどのような方法に落ち着きましたか。

11件の回答

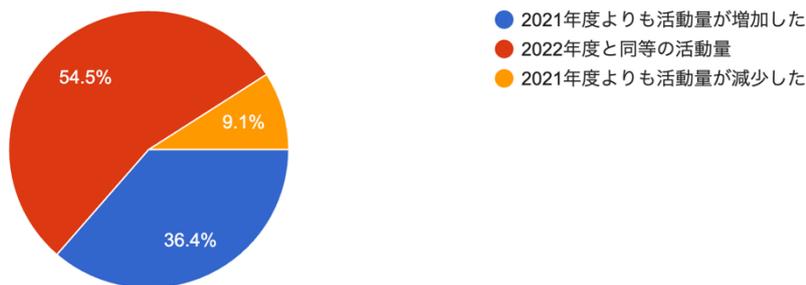


③2022年度の活動量は前年度（2021年度）と比較してどの程度の活動量でしたか。

2022年度と同等の活動量だったコミュニティが半数以上でした。また、活動量が増加したと回答したコミュニティも36.4%ありました。2021年度のアンケートでは、活動量が減少したのは18.8%でしたが、今回は9.1%となったことから、全体にコミュニティの活動量が増加していると考えられます。

2022年度の活動量は前年度（2021年度）と比較してどの程度の活動量でしたか。

11件の回答



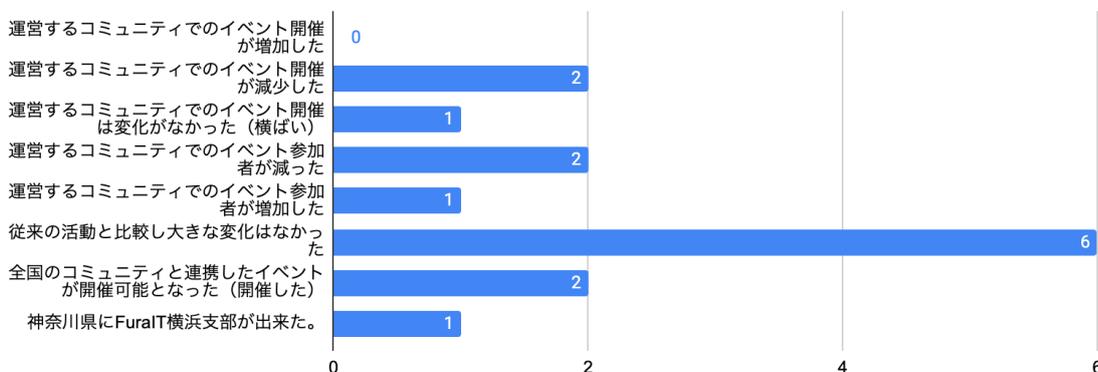
④全国の勉強会やイベントがオンライン化することによって運営するコミュニティにどのような変化がありましたか（複数回答あり）

「従来の活動と比較し大きな変化はなかった」に約半数の回答が入りました。

前回のアンケートでは「全国のコミュニティと連携したイベントが開催可能となった」に約半数の回答がありました。2021年度までに、オンライン化に伴うコミュニティ活動の安定化が行われていたと考えられます。

また、地域コミュニティである FuraIT に横浜支部ができたことも報告されました。

全国の勉強会やイベントがオンライン化することによって運営するコミュニティにどのような変化がありましたか
(複数回答あり)



⑤前年度（2021 年度）と比較して活動量が変化した（あるいは維持されている）のはなぜですか。答えられる範囲でご記載ください。

オンライン開催に慣れたという声が多く聞かれました。また、オンラインのほうが予定を調整しやすい、参加しやすいとする一面がみられました。

一方で、オンライン開催だと準備時間が必要、安定した開催時間を確保しなければいけない等課題も挙げられました。

2021 年度は休止していたため
準備にかかる時間がオフラインよりも必要となるため
ゆるくやっているため
主催者である自分が、安定して開催の時間を捻出できたため。また、オンライン開催に慣れたため。
オンラインの定期開催に切り替えることで、予定を立てやすく気軽に参加できるようにした。
オンラインの方が参加しやすい人もいるため
部内では主に Discord を利用してコミュニケーションをとっているので前年度と比較して特に変化はなかった。

⑥前年度(2021 年度)と比較してコミュニケーション方法・量が変化した（あるいは維持されている）のはなぜですか。答えられる範囲でご記載ください。

オフライン開催が難しいことを前提として、昨年までの一様な試行錯誤の段階から、現状の維持、「ゆるく」活動、テスト運用の開始を行うなど、コミュニティ毎に各々の活動量・活動方法が具体化したと考えられます。

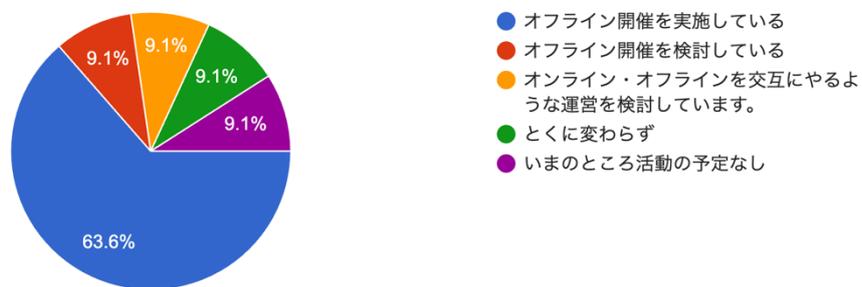
2021 年度は休止し、22 年度は本運用でなくコロナ後のテスト運用となったため、本来主としている活動はしなかったため参加者は少なくなった。
特に大きな変化はなかった
ゆるくやっているため、観測をだれもしていない可能性があります。ただ 2021 年度ではありませんが、オンライン実施しかなかった際に、できそうな手法をとりあえず採用して変わらずゆるく開催できたことが良かったとおもいます。
2022 年後半になってコロナ禍の影響が少なくなったため。
オンライン勉強会中の、Twitter でのコメント量は 2021 年度と比べて維持されたと思います。
オンラインの方が参加しやすい人もいるため（オンラインだと参加できない人もおり、増減相殺された状況です）
チャットツールなどの活用により時間にとらわれないコミュニケーションができています

部内では主に Discord を利用してコミュニケーションをとっているので前年度と比較して特に変化はなかった。

⑦2023 年 5 月より、緊急事態宣言が解除・コロナが第五類になりました。それに伴い、コミュニティ活動に変化はありましたか。

OSC2023 北海道も展示のみオフラインでの開催となりました。ここ 2 年ほどはオンライン開催がメインでしたが、Q1,2 にもある通り、現在はオフライン開催の検討、実施が進んでいます。傾向としてはオンラインに慣れはしたものの、オフラインへの回帰が起り始めていると考えられます。

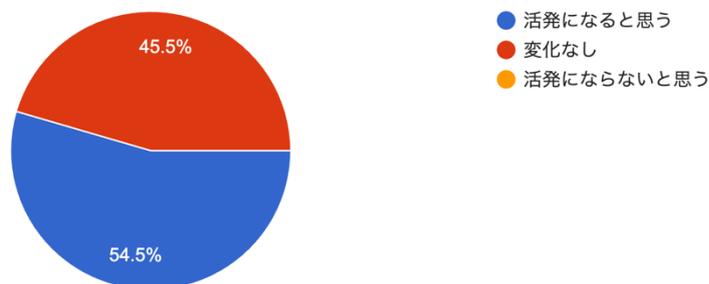
2023年5月より、緊急事態宣言が解除・コロナが...に伴い、コミュニティ活動に変化はありましたか。
11 件の回答



⑧2023 年になり、オフライン開催ができる環境に戻りつつあることにより、今後の活動量はどのようになる予定ですか。

「活発にならないと思う」が 0 件の回答という結果になりました。オフライン開催による活動量増加・活発化への期待が強いことがわかります。

2023年になり、オフライン開催ができる環境に戻...り、今後の活動量はどのようになる予定ですか。
11 件の回答



⑨今後のイベントの開催形態を教えてください。（未定の場合は実施したい形態と最も近いと思われる選択肢を教えてください。）

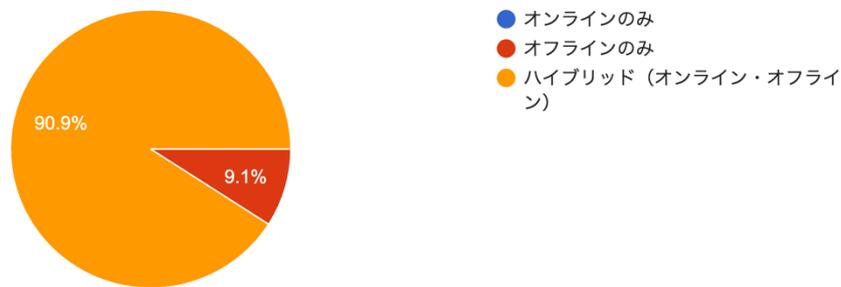
90.9%の回答が「ハイブリッド開催」となりました。また、「オンラインのみ」は0回答となりました。従来からオフライン開催をしていたコミュニティが多数であり、少なくともオフライン開催は全コミュニティが期待していることであると考えられます。

加えて、コロナ禍前のオフラインのみのイベント開催ではなく、オンラインを活用したハイブリッド構成が主流になっていくと考えられます。

オフラインとオンラインの双方の利点を活かしつつ、開催形態を模索する段階に入っていると思われます。

今後のイベントの開催形態を教えてください。（…も近いと思われる選択肢を教えてください。）

11件の回答

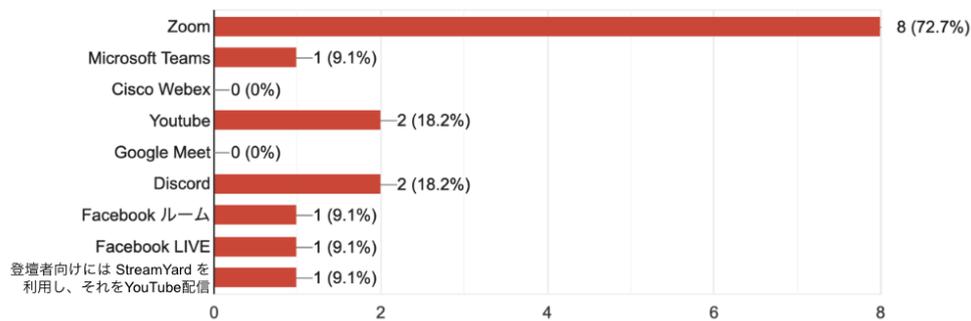


⑩オンラインイベントを主催/運営する際に利用しているツールを教えてください。

前回のアンケートに引き続き Zoom の使用が一番多い結果となりました。Teams や Discord など、チャットツールの会議機能を利用するコミュニティもありました。

オンラインイベントを主催/運営する際に利用しているツールを教えてください。

11件の回答



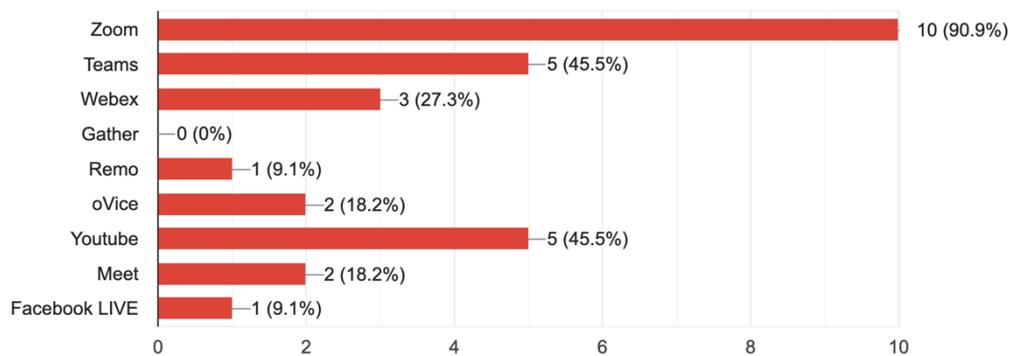
⑪オンラインイベントに参加する際に利用したことがあるものを教えてください。

前回のアンケートとほぼ同様の結果となりました。

この1年間での新しいツールの浸透といったことはなかったといえます。

オンラインイベントに参加する際に利用したことがあるものを教えてください。

11件の回答



⑫オンラインになって交流会/懇親会に変化はありましたか。答えられる範囲でご記載ください。
(変化がない場合は変化が無い理由を答えられる範囲でご記載ください)

過去2年間ではオンラインでの懇親会の実施方法の模索に関する回答が多くありました。今回はオンライン懇親会の実施状態が二分されており、模索の段階から実施/未実施がコミュニティごとに明確化された段階に移ったと考えられます。

オンライン開催の場合、移動がないのでスムーズに開催できるメリットがある一方、運営の難しさから開催を控えるコミュニティが多い傾向になりました。

一方で、企業とのコラボなど、オンラインのメリットを活かした活動もありました。

オンラインは特にしていない。
大きな変化はなかった
オンラインの場合は会場移動がなく、そのままスムーズに懇親会に移行できたような気がします。みんなでおいしいものを注文するという楽しみは薄れましたが、各自自分なりに楽しんでいったような気がします。
オンラインでの交流や懇親会では運営が難しくほとんど開催しなかった。
オンラインでは、懇親会は実施していません。
オンラインでは懇親会を別途設けず、勉強会参加中に飲食 OK とした。
オフラインの場合は懇親会が開催されていましたが、オンラインでは開催されなくなりました
この回答を書いている人は入部時からオンラインでの活動がメインだったので変化については正直よくわからないかもです... 議事録を見返してみると、コロナ禍をうけて新歓を Zoom で行うようになったようです。今年度は5日程のうち4日程を zoom で、最終日のみ対面形式での実施としました。複数日程開催したり、企業さんとのコラボを企画したりと、オンラインの利点を活かす形で実施できており非常に満足しています。

⑬これからの活動で挑戦していきたいこと、目指していきたいコミュニティの形はありますか。答えられる範囲でご記載ください。

開催をハイブリッド化することで、コミュニティの開催地を離れてしまったメンバーも参加できるように挑戦しているところや、認知度をあげ、コミュニティのメンバーを増やしたいという希望もありました。また、無理のない運営で継続してコミュニティを運営することが求められています。

転勤等で札幌を離れてしまった部員に対して、オフラインとオンラインをハイブリッド化して参加できるよう試験運用している。

オフライン当時の開催頻度を継続すること、道内の開催地域を増やすこと

日本で一番ゆるくて長寿なコミュニティを目指します。

現在の活動をより多くの方々に知っていただき、メンバーの加入を図りたい。

オフラインも再開したいと思っていますが、オンラインで気軽に参加できる、という形も残した方が良いと考えています。

無理なく運営できるコミュニティ

オフライン活動を増加させる予定です

若いメンバーを増やしたい

現段階では「技術の楽しさを教えるような活動をしている学生団体」と「そもそも元から技術が好きな人が集まる学生団体」を両立する事を目指しています。どちらにも寄せ切れていない結果、薄い活動になるのも不本意なので、来年度には方針が変わっているかもしれません。

⑭他のコミュニティに聞いてみたいことはありますか。（コミュニティの運営、イベントコミュニケーション方法等）

各コミュニティの今後の活動を検討するにあたり、以下の内容に関する質問が挙げられました。

コミュニティのメンバー維持や費用の捻出など。
仲間内の会とならないように配慮していること
プライベートが大変だな…と思っているときにそれでもやるぞ！みたいな気持ちになる方法などありますか。
オフライン回帰が目立ってきたので、オンラインをやめる方向に進むのが主流になりそうでしょうか？
活動休止しているコミュニティへ、活動を再開する予定はあるか？
オンライン志向の人と、オフライン志向の人が両方いて、どちらに傾いても参加者が増加しません。ハイブリッドは開催の段取りが（多少）複雑化し、手間がかかります。どのように折り合いを付けていますか？
部の活動に貢献したいと思ってくれるメンバーを確保するのに難儀しています…。運営に勧誘する方法であったり、コアメンバーを増やすための取り組みについて聞いてみたいです。

⑮これまでの質問項目に該当しない内容で自身の所属コミュニティや、コミュニティを取り巻く環境についてご意見、お悩み等があれば自由にご記載ください（抜粋）

再開したことにより参加者の減少してしまうことが懸念していたが、再開すると以前同様な参加者が集まっており、オンライン等の環境変化による影響は少なく感じた。
集客に苦勞する、適切なリーチ獲得方法
あいにく出不精なもので他の地域のコミュニティに関しては伝え聞くばかりなのですが、地域貢献という意味での自身のコミュニティの意義というものを考えさせられる機会がありました。ゆるい勉強会はやりたいことをゆるくやっていくぞ！というコミュニティですが、参考までに地域とのかかわり方についてお伺いしてみたくはあります。

以上